

P5Q SE2



Motherboard

J4200
初版第 1 刷
2008 年10月

Copyright © 2008 ASUSTeK Computer, Inc. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer, Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

- (1)ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2)製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

ご注意	vi
安全上のご注意	vii
このマニュアルについて	vii
P5Q SE2 仕様一覧	ix

Chapter 1 製品の概要

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容	1-1
1.3	独自機能	1-1
1.3.1	製品の特長	1-1
1.3.2	ASUSの独自機能	1-2
1.3.3	ASUSのスタリッシュな機能	1-3
1.3.4	ASUSのインテリジェントオーバークロック	1-4
1.4	始める前に	1-4
1.5	マザーボードの概要	1-5
1.5.1	設置方向	1-5
1.5.2	ネジ穴	1-5
1.5.3	マザーボードのレイアウト	1-6
1.5.4	レイアウトの内容	1-7
1.6	CPU	1-7
1.6.1	CPUを取り付ける	1-8
1.6.2	CPUにヒートシンクとファンを取り付ける	1-10
1.6.3	CPUからヒートシンクとファンを取り外す	1-11
1.7	システムメモリ	1-11
1.7.1	概要	1-11
1.7.2	メモリ構成	1-12
1.7.3	メモリを取り付ける	1-15
1.7.4	メモリを取り外す	1-16
1.8	拡張スロット	1-16
1.8.1	拡張カードを取り付ける	1-16
1.8.2	拡張カードを設定する	1-16
1.8.3	PCI スロット	1-17
1.8.4	PCI Express x1 スロット	1-17
1.8.5	PCI Express x16 スロット	1-17
1.9	ジャンパ	1-17

もくじ

1.10	コネクタ	1-19
1.10.1	バックパネルコネクタ.....	1-19
1.10.2	内部コネクタ	1-20
1.11	ソフトウェアサポート	1-27
1.11.1	OSをインストールする	1-27
1.11.2	サポート DVD 情報.....	1-27

Chapter 2 BIOSセットアップ

2.1	BIOS 管理更新	2-1
2.1.1	ASUS Update.....	2-1
2.1.2	ブートフロッピーディスクを作成する	2-3
2.1.3	ASUS EZ Flash 2.....	2-3
2.1.4	AFUDOS.....	2-4
2.1.5	ASUS CrashFree BIOS 3.....	2-6
2.2	BIOS 設定プログラム	2-7
2.2.1	BIOSメニュー画面.....	2-8
2.2.2	メニューバー.....	2-9
2.2.3	ナビゲーションキー.....	2-9
2.2.4	メニュー	2-9
2.2.5	サブメニュー	2-9
2.2.6	構成フィールド.....	2-9
2.2.7	ポップアップウィンドウ.....	2-10
2.2.8	スクロールバー.....	2-10
2.2.9	ヘルプ.....	2-10
2.3	メインメニュー	2-10
2.3.1	System Time	2-10
2.3.2	System Date.....	2-10
2.3.3	Legacy Diskette A	2-10
2.3.4	SATA 1~6.....	2-11
2.3.5	Storage Configuration.....	2-11
2.3.6	システム情報.....	2-12
2.4	Ai Tweaker メニュー	2-12
2.5	拡張メニュー	2-17
2.5.1	CPU の設定.....	2-17
2.5.2	チップセット.....	2-18
2.5.3	オンボードデバイス設定構成.....	2-18

もくじ

2.5.4	USB設定	2-19
2.5.5	PCI/PnP	2-19
2.6	電源メニュー	2-20
2.6.1	Suspend Mode	2-20
2.6.2	ACPI 2.0 Support	2-20
2.6.3	ACPI APIC Support	2-20
2.6.4	APMの設定	2-20
2.6.5	ハードウェアモニタ	2-21
2.7	ブートメニュー	2-22
2.7.1	ブートデバイスの優先順位	2-22
2.7.2	起動設定	2-22
2.7.3	セキュリティ	2-23
2.8	ツールメニュー	2-24
2.8.1	ASUS EZ Flash 2	2-24
2.8.2	Express Gate	2-24
2.8.3	AI NET 2	2-25
2.8.4	ASUS O.C. Profile	2-25
2.9	終了メニュー	2-26

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.



This symbol of the crossed out wheeled bin indicates that the product (electrical and electronic equipment) should not be placed in municipal waste. Check local regulations for disposal of electronic products.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- ・ 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、回路のショート等の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

本章は以下の章から構成されています。

- ・ **Chapter 1: 製品の概要**
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- ・ **Chapter 2: BIOSセットアップ**
セットアップメニューでのシステム設定の変更方法とBIOSパラメータの詳細。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)

各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告: 本製品を取り扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取り扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取り扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取り扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

< > で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter>→Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+D>

P5Q SE2 仕様一覧

CPU	LGA775 ソケット: Intel® Core™2 Extreme / Core™2 Quad / Core™2 Duo / Pentium® Dual-Core / Celeron® Dual-Core / Celeron® プロセッサ対応 Intel® 05B/05A/06 プロセッサ対応
チップセット	Intel® Fast Memory Access テクノロジー搭載 Intel® P45 / ICH10
システムバス	1600 / 1333 / 1066 / 800 MHz
対応メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ <ul style="list-style-type: none"> - 240ピンメモリスロット×4 : non-ECC DDR2 1200/1066 / 800 / 667 MHz メモリをサポート - 最大16GBのシステムメモリをサポート * 推奨メモリは www.asus.co.jp または本書のメモリ推奨ベンダーリストをご参照ください。 ** Windows32bit OSでは、4 GB 以上のシステムメモリを取り付けても検出されるシステムメモリは 3 GB以下となります。 Windows32bit OSをご使用の場合は、3 GB以下のシステムメモリ構成にすることを勧めします。
拡張スロット	PCIe x16スロット×1 PCIe x1スロット×2 PCIスロット×3
記憶装置	Intel ICH10 サウスブリッジ <ul style="list-style-type: none"> - Serial ATA 3Gb/s ポート×6 Marvell® 88SE6102 <ul style="list-style-type: none"> - UltraDMA 133/100/66×1 : PATAデバイス2台まで対応
LAN	Realtek® 8111C-VCP, PCIe Gigabit LAN Controller AI NET2機能
オーディオ	VIA VT1708S, 8チャンネルHDオーディオコーデック <ul style="list-style-type: none"> - Jack-Detection, Multi-streaming - コアキシャルS/PDIF出力ポート (バックパネル I/O) - ASUSノイズフィルタリング機能
USB	USB 2.0 ポート×12 (ボード上に6基、バックパネルに6基)
BIOS機能	8Mb Flash ROM, AMI BIOS, PnP, DMI 2.0, WfM 2.0, SM BIOS 2.5, ACPI 2.0a, ASUS EZ Flash 2, ASUS CrashFree BIOS 3
ASUSの独自機能	ASUS節電ソリューション: <ul style="list-style-type: none"> - ASUS AI Nap ASUS AI Lifeの機能: <ul style="list-style-type: none"> - ASUS Express Gate ASUS Crystal Sound: <ul style="list-style-type: none"> - ASUSノイズフィルター ASUS EZ DIY: <ul style="list-style-type: none"> - ASUS O.C. Profile - ASUS CrashFree BIOS 3 - ASUS EZ Flash 2

(次項へ)

P5Q SE2 仕様一覧

ASUS だけの オーバークロック機能	<p>インテリジェントオーバークロックツール:</p> <ul style="list-style-type: none"> - ASUS AI Booster <p>Precision Tweaker:</p> <ul style="list-style-type: none"> - vCore: 0.00625V刻みでCPU電圧を調節 - vDIMM: 6 ステップDRAM電圧コントロール <p>SFS (Stepless Frequency Selection):</p> <ul style="list-style-type: none"> - FSB調節: 1 MHz 刻みで200MHz ~ 600MHz - DDR2メモリ調節: 667MHz~1333MHz - PCI Express 周波数の調節: 1 MHz 刻みで100MHz ~ 160MHz <p>オーバークロック保護機能:</p> <ul style="list-style-type: none"> - ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall)
その他の機能	ASUS MyLogo2
バックパネル I/O ポート	<p>PS/2 キーボードポート× 1</p> <p>PS/2 マウスポート× 1</p> <p>コアキシャルS/PDIF出力ポート× 1</p> <p>LAN (RJ-45) ポート× 1</p> <p>USB 2.0/1.1 ポート× 6</p> <p>8 チャンネルオーディオ I/Oポート</p>
内部 I/O コネクタ	<p>USB コネクタ× 3 : 追加USBポート 6 基に対応</p> <p>フロッピーディスクドライブコネクタ× 1</p> <p>IDEコネクタ× 1</p> <p>SATAコネクタ× 6</p> <p>CPUファンコネクタ× 1、ケースファンコネクタ× 1</p> <p>電源ファンコネクタ× 1</p> <p>COMコネクタ× 1</p> <p>S/PDIF 出力ヘッダー× 1</p> <p>ケース開閉検出コネクタ× 1</p> <p>フロントパネルオーディオコネクタ× 1</p> <p>CD オーディオ入力コネクタ× 1</p> <p>24ピン ATX 電源コネクタ× 1</p> <p>4ピン ATX 12V 電源コネクタ× 1</p> <p>システムパネルコネクタ× 1</p>
マネージメント機能	WfM 2.0, DMI 2.0, WOL by PME, WOR by PME, PXE
アクセサリ	<p>UltraDMA 133 / 100 / 66 ケーブル× 1</p> <p>Serial ATAケーブル× 2</p> <p>I/O Shield× 1</p> <p>ユーザーマニュアル(本書)</p> <p>* フロッピーディスクドライブケーブルは付属しません。別途お求め下さい。</p>
サポートDVD	<p>各ドライバ</p> <p>ASUS AI Suite</p> <p>ASUS PC Probe II</p> <p>ASUS Update</p> <p>アンチウイルス ソフトウェア (OEM 版)</p>
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5 cm x 19.3 cm (12インチ×7.6インチ)

*仕様は製品改善のため、予告なく変更することがあります。

Chapter 1

製品の概要

1.1 ようこそ

ASUS® P5Q SE2 マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供する ASUS の高品質マザーボードです。マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中に以下のものが揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

マザーボード	ASUS P5Q SE2
ケーブル	Serial ATA ケーブル × 2 Ultra DMA 133/100/66 ケーブル × 1
アクセサリ	I/O シールド × 1
アプリケーションCD	ASUS マザーボードサポート DVD
ドキュメント	ユーザーマニュアル(本書)



- ・ 付属品が足りないときや破損しているときは、販売店様にご連絡ください。
- ・ フロッピーディスクドライブ (FDD) ケーブルは別売です。

1.3 独自機能

1.3.1 製品の特長

Green ASUS



このマザーボードとパッケージは、欧州連合 (EU) の RoHS 指令 (電気電子機器の特定有害物質使用規制) の基準を充たしています。これは環境に優しくリサイクル可能な製品/パッケージを提供する ASUS の企業理念と合致するものです。

Intel® Core™2 Extreme / Core™2 Quad / Core™2 Duo CPU サポート



本マザーボードは最新の LGA775 パッケージ Intel® Core™2 Extreme / Core™2 Quad / Core™2 Duo プロセッサをサポートします。1600/1333/1066/800MHz FSBにより、Intel® Core™2 は現在最もパワフルかつ省電的なプロセッサです。(詳細: ページ 1-7 参照)

Intel® P45 チップセット



Intel® P45 Express チップセットはデュアルチャンネルDDR2 800/667MHz アーキテクチャ、1333/1066/800MHz FSB、PCIe 2.0、マルチコアCPUをサポートするために開発された最新のチップセットです。Intel Fast Memory Access テクノロジーの採用で、メモリ帯域をより有効に利用することが可能で、メモリアクセス遅延の低減を実現しています。



PCI Express 2.0 サポート

本マザーボードは最新のPCIe 2.0 デバイスをサポートしています。スピードと帯域が倍増することで、システムパフォーマンスが大幅にアップします。



デュアルチャンネルDDR2 1200メモリサポート

本マザーボードは、周波数1200 / 1066 / 800 / 667 MHzのDDR2メモリに対応しています。最新のOS、3D グラフィックス、マルチメディア、インターネットアプリケーションといった用途での高い帯域への要求を充たします。デュアルチャンネルDDR2 アーキテクチャは、システムのメモリ帯域を2倍にし、システムパフォーマンスを向上させます。最大帯域幅19.2GB/sでボトルネックを回避します。(詳細: ページ1-13参照)



Serial ATA 3Gb/s

Serial ATA (SATA) 3Gb/s ストレージ規格をベースとするハードドライブをサポートしていますので安定性が向上し、バスの帯域の倍増で高速データ転送し保存をします。

1.3.2 ASUSの独自機能



ASUS AI Life の機能

Express Gate

Windows を起動せずにわずか5秒でインターネットにアクセス! Express Gate はASUS独自のマザーボード内蔵型OSで、Windows を起動しなくても、インスタントメッセージ (MSN、Skype、Google talk、QQ、Yahoo) や、メールボックスの確認や、画像閲覧が可能です。とっさの時に役立つ便利な機能です。是非ご活用ください。



- 実際の起動時間はハードウェア構成と製品のモデルによって異なります。
- ASUS Express Gate がサポートするファイルの移動は、SATA HDD、光学ドライブ、USBドライブからのアップロードと、USBドライブからのダウンロードのみです。

ASUS 節電ソリューション



ASUSの節電ソリューションはシステムの負荷に応じて電力消費を調節し、バランスの取れたコンピューティング環境を実現します。

AI Nap

タスクを終了することなくコンピュータを即座にスリープさせます。ユーザーが不在の間、システムは最小限の電力とノイズで動作を継続し、ファイルのダウンロード、アプリケーションを引き続き静音で実行します。キーボードあるいはマウスをクリックすると、数秒でスリープ状態を解除します。

ASUSクリスタルサウンド

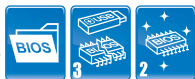


ASUSクリスタルサウンドにより、オンラインゲーム、テレビ会議、レコーディング等の音声中心のアプリケーション機能が向上します。

ノイズフィルター

コンピュータのファンやエアコン等の個々の定常ノイズ（肉声ではない信号）を検出し、録音中はそれらの音をカットします。

ASUS EZ DIY



ASUS EZ DIY 機能は、コンピュータのコンポーネントの取り付けや、BIOS 更新、設定データのバックアップに便利な機能が満載です。

ASUS O.C. Profile

本マザーボードには、ASUS O.C. Profile 機能が搭載されており、複数の BIOS 設定を保存、ロードすることができます。各 BIOS 設定は CMOS またはファイルに保存することができ、BIOS 設定の利用と共有が簡単に行えます。（詳細：ページ 2-25 参照）

ASUS CrashFree BIOS 3

破損した BIOS データを BIOS ファイルを含む USB フラッシュメモリ、マザーボードサポート DVD、ブートディスクから復旧することができます。（詳細：ページ 2-6 参照）

ASUS EZ Flash 2

OS をロードする前でも、USB フラッシュメモリで BIOS の更新が行えます。操作は簡単に数回クリックするだけです。OS ベースのユーティリティやブートディスクは不要です。（詳細：ページ 2-3、2-24 参照）

1.3.3 ASUSのスタリッシュな機能

ASUS MyLogo2™



この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。（詳細：ページ 2-22 参照）

1.3.4 ASUSのインテリジェントオーバークロック

AI Booster

ASUS AI Booster は CPU スピードをWindows 環境でオーバークロックする機能です。BIOSを開く必要はありません。



Precision Tweaker

CPU/メモリ電圧の値を微調整し、またメモリFSBとPCI Express 周波数を 1MHz 刻みで段階的に上げることができます。(詳細: 2-12～2-17参照)

CPU Parameter Recall (C.P.R.)



オーバークロック時にシステムがハングした場合、BIOSを初期設定値に自動再設定します。オーバークロックが原因でハングした場合は、シャットダウンし、再起動するだけです。ケースを開けてRTCデータをクリアする必要はありません。

1.4 始める前に

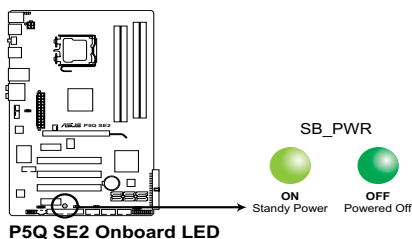
マザーボードのパーツの取り付けや設定変更の前は、次の事項に注意してください。



- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置るか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFF の位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

オンボードLED

スタンバイ LED が搭載されており、電力が供給されている間は緑のLEDが点灯します。マザーボードに各パーツの取り付け・取り外しを行う際は、システムを必ずOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



1.5 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける際は、ケースの構造を確認してください。



マザーボードの取り付け、取り外しを行う際は、必ず電源コードを抜いてから行ってください。電源コードを接続したまま作業を行うと、ケガやマザーボードの故障に繋がります。

1.5.1 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

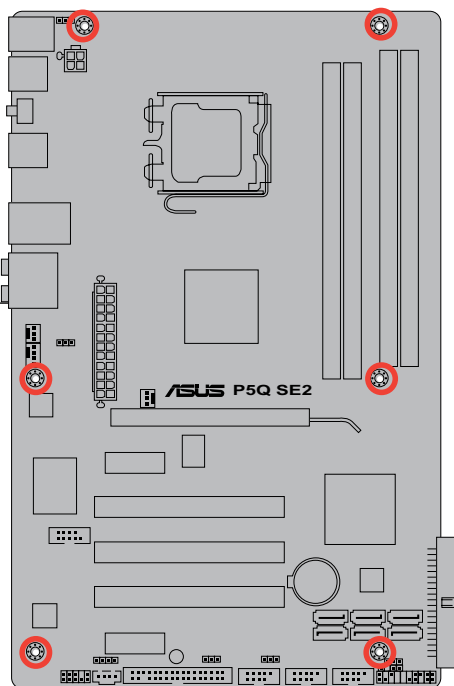
1.5.2 ネジ穴

ネジ穴は6カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。

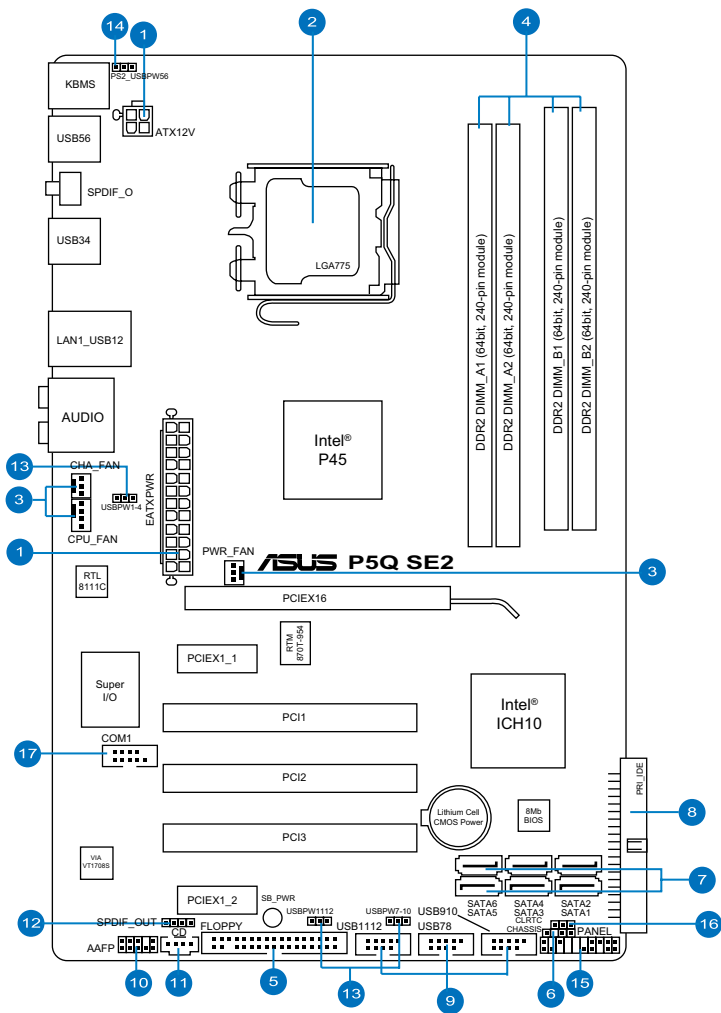


ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。

この面をケースの背面に
合わせます。



1.5.3 マザーボードのレイアウト



バックパネルコネクタと内部コネクタの詳細については、セクション「1.10 コネクタ」をご参照ください。

1.5.4 レイアウトの内容

コネクタ/ジャンパスロット	ページ
1. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR, 4ピン EATX12V)	1-25
2. LGA775 CPU ソケット	1-8
3. CPUファン、ケースファン、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN、3ピン PWR_FAN)	1-22
4. DDR2 メモリスロット	1-11
5. フロッピーディスクドライブ コネクタ (34-1ピン FLOPPY)	1-20
6. ケース開閉検出コネクタ (4-1ピン CHASSIS)	1-24
7. Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1-6)	1-22
8. IDEコネクタ (40-1ピン PRI_EIDE)	1-21
9. USBコネクタ (10-1ピン USB78、USB910、USB1112)	1-23
10. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピン AAFP)	1-24
11. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)	1-25
12. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピン SPDIF_OUT)	1-21
13. USBデバイスウェイクアップ (3ピン USBPW1-4、USBPW7-10、USBPW1112)	1-18
14. キーボード/マウス電源 (3ピン PS2_USBPW56)	1-18
15. システムパネルコネクタ (20-8ピン PANEL)	1-26
16. Clear RTC RAM (3ピン CLRTC)	1-17
17. Serial ポートコネクタ (10-1ピン COM1)	1-23

1.6 CPU

本製品には Intel® Core™2 Extreme / Core™2 Quad / Core™2 Duo / Pentium® Dual-core / Celeron® Dual-core / Celeron® プロセッサ用に設計された LGA775 ソケットが搭載されています。



- CPUを取り付ける際は、全ての電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- システム安定のためケースファンケーブルを CHA_FAN コネクタに接続してください。

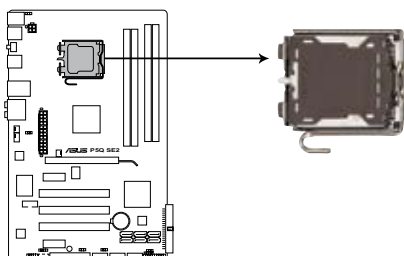


- マザーボードのご購入後すぐにソケットキャップがソケットに装着されていることと、ソケットの接触部分が曲がっていないかを確認してください。ソケットキャップが装着されていない場合や、ソケットキャップ/ソケット接触部/マザーボードのコンポーネントに不足やダメージが見つかった場合は、すぐに販売店までご連絡ください。不足やダメージが出荷及び運送が原因の場合に限り、ASUSは修理費を負担いたします。
- マザーボードを取り付けた後も、ソケットキャップを保存してください。ASUSは、このソケットキャップが装着されている場合にのみ、RMA (保証サービス) を受け付けます。
- 製品保証は、CPUやソケットキャップの間違った取り付け・取り外しや、ソケットキャップの紛失に起因する故障及び不具合には適用されません。

1.6.1 CPUを取り付ける

手順

1. マザーボードのCPUソケットの位置を確認します。



P5Q SE2 CPU Socket 775

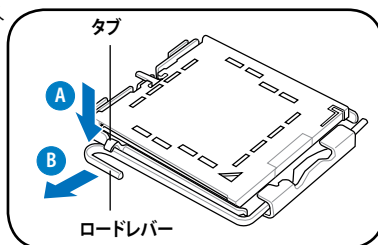


CPUを取り付ける前にCPUソケットを手前に向け、ロードレバーが向かって左側にあることを確認してください。

2. 親指でロードレバーを押し (A)、タブから外れるまで左に動かします (B)。

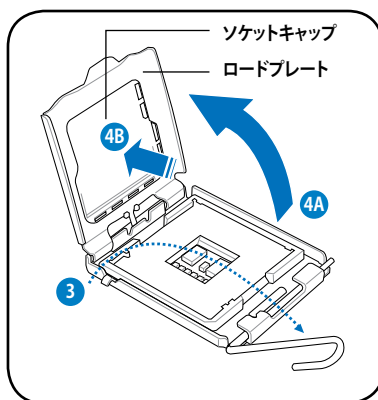


ソケットピンの損傷防止のため、ソケットキャップはCPUを取り付けるまで外さないでください。

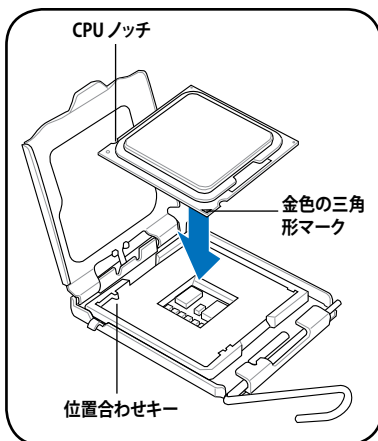


3. 矢印の方向に135° ほどロードレバーを持ち上げます。

4. ロードプレートを親指と人差し指で100° ほど持ち上げ (4A)、ロードプレートウィンドウからソケットキャップを押して取り外します (4B)。



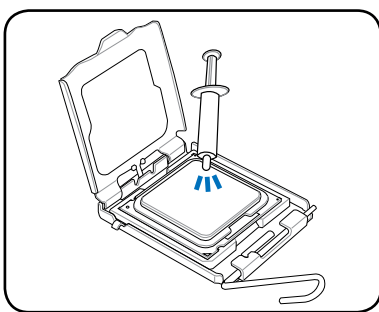
5. CPU 書かれている金色の三角形がソケットの左下隅になるようにCPUをソケットの上に載せます。このとき、ソケットの位置合わせキーは、CPUの溝にぴったり合わせる必要があります。



6. ヒートシンクを取り付けるため、サーマルグリスをCPUの表面に薄く均一に塗布します。



ヒートシンクによっては既にサーマルグリスが塗布されています。その場合はこの手順は行わず、次の手順に進んでください。



サーマルグリスは有毒物質を含んでいます。万一目に入った場合や、肌に直接触れた場合は洗浄後、すぐに医師の診断を受けてください。

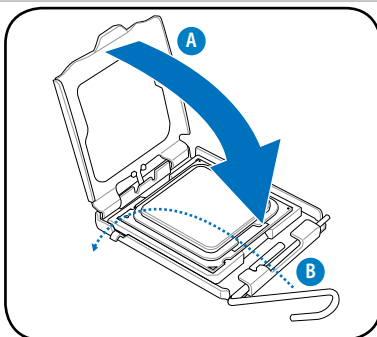


サーマルグリスを塗布する際は指で直接塗布しないでください。サーマルグリスの質が落ち、冷却能力に影響が出ます。

7. ロードプレートを閉じ(A)、ロードレバー(B)がタブに収まるまで押します。



本製品は Intel® Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST)、Hyper-Threading Technology を搭載した Intel® LGA775 プロセッサをサポートしています。



1.6.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

Intel® LGA775 プロセッサ用に、特別に設計されたヒートシンクとファンを組み合わせることで、効率的な冷却を行いCPU パフォーマンスを引き出します。



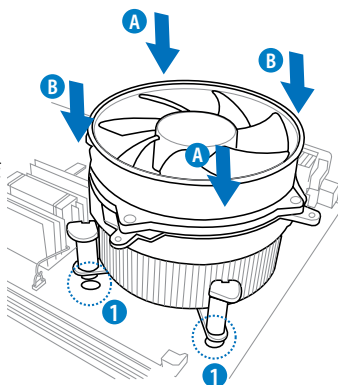
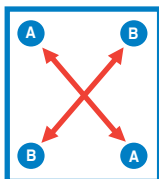
- ・ 箱入りの Intel® プロセッサを購入した場合、パッケージにはヒートシンクとファンが入っています。CPU のみをお求めになった場合、Intel® が認定したマルチディレクションヒートシンクとファンを必ずご使用ください。
- ・ CPUファンとヒートシンクを取り付ける前に、ケースにマザーボードを取り付けてください。
- ・ CPUヒートシンクとファンを別々にお買い求めになった場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルグリスがヒートシンクまたはCPUに塗布されていることを確認してください。



Intel® LGA775 用のヒートシンクとファンにはプッシュピンデザインが採用されており、取り付けの際に特別な工具は必要ありません。

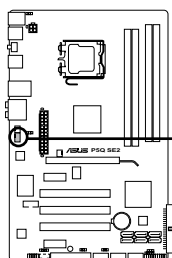
ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. 4つのファスナーがマザーボードの穴の位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。
2. 対角線上にある2つのファスナーを同時に押し下げ、ヒートシンクとファンを正しい場所に固定します。

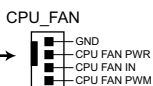


CPUヒートシンクとファンには様々なタイプがありますが、取り付け方法はみな同じです。なお、図は参照用です。実際とは異なる場合があります。

3. CPUファンケーブルをCPU_FANと表示されたマザーボードの上のコネクタに接続します。



P5Q SE2 CPU fan connector

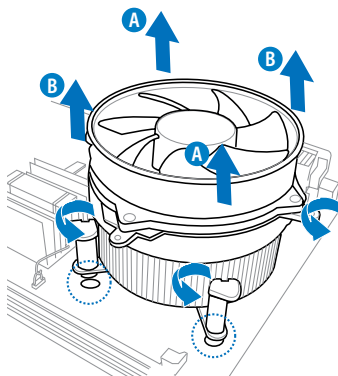
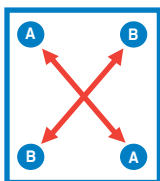


CPUファンのケーブルを必ず接続してください。ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。

1.6.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す

手順

1. マザーボードのコネクタからCPUファンのケーブルを抜きます。
2. 各ファスナーを左へ回します。
3. 対角線上の2つのファスナーを同時に引き抜いて、マザーボードからヒートシンクとファンを外します。



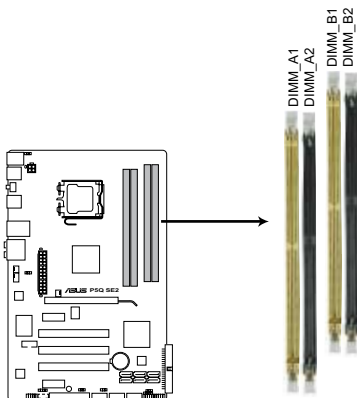
4. マザーボードからヒートシンクとファンを慎重に取り外します。

1.7 システムメモリ

1.7.1 概要

本製品には、DDR2 メモリに対応したメモリスロットが4基搭載されています。

DDR2メモリスロットの位置は図をご参照ください。



P5Q SE2 240-pin DDR2 DIMM Slot

チャンネル	スロット
Channel A	DIMM_A1とDIMM_A2
Channel B	DIMM_B1とDIMM_B2

1.7.2 メモリ構成

本マザーボードは 512 MB、1 GB、2 GB、4 GB の unbuffered non-ECC DDR2 メモリをメモリスロットに取り付けることができます。

推奨メモリ構成

モード	スロット			
	DIMM_A1	DIMM_A2	DIMM_B1	DIMM_B2
シングルチャンネル	-	-	使用	-
	使用	-	-	-
デュアルチャンネル(1)	使用	-	使用	-
デュアルチャンネル(2)	使用	使用	使用	使用



- DDR2メモリを1枚のみ使用する場合、先ずDIMM_A1またはDIMM_B1から取り付けてください。オーバークロックの性能を向上させます。
- デュアルチャンネル(1)の場合、同一のメモリ2枚をDIMM_A1とDIMM_B1に取り付けてください。
- デュアルチャンネル(2)の場合、次のようにしてください。
 - 同一のメモリ4枚を4スロットに取り付ける、または
 - 同一のメモリ2枚をDIMM_A1とDIMM_B1(イエローのスロット)に取り付け、もう一方の同一のメモリ2枚をDIMM_A2とDIMM_B2(黒のスロット)に取り付けます。
- 常に同じCASレイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。
- OS Windows Vista 32bit/Windows XP 32bit では1GBメモリを4枚取り付けても、システムは3GB未満のシステムメモリしか認識しないことがあります。合計3GB未満のシステムメモリを取り付けることをお勧めします。
- 本マザーボードは128 Mb チップで構成されるメモリとダブルサイド x16 メモリをサポートしません。



- 本マザーボードはWindows® XP Professional 64、Windows® Vista 64では最大16GBのシステムメモリをサポートします。最大4GBのメモリを各スロットに取り付け可能です。
- 初期設定のメモリ動作周波数はメモリのSPDに左右されます。初期設定では、特定のメモリはオーバークロックしてもメーカーが公表する値より低い値で動作する場合があります。メーカーが公表する値またはそれ以上で動作させる場合は、手動で周波数を調節してください。詳細はセクション「2.4 Ai Tweakerメニュー」をご参照ください。
- メモリを4枚取り付ける場合やメモリをオーバークロックする場合は、それに対応可能な冷却システムが必要となります。
- 一部の旧バージョンDDR2-800メモリはIntel®のOn-Die-Termination (ODT)に適合せず、自動的にDDR2-667にダウングレードします。ダウングレードした場合は、メモリ販売店にお問い合わせ頂き、ODT値をご確認ください。
- チップセットの上限により、CL=4のDDR2-800はDDR2-667にダウングレードされます。低いレイテンシが必要な場合は、メモリタイミングを手動で調節してください。

P5Q SE2 QVL (メモリ推奨ベンダーリスト)

DDR2-1200MHz

サイズ	ベンダー	パーツNo.	CL	チップ ブランド	SS/DS	チップ No.	メモリサポート		
							A*	B*	C*
1G	OCZ	OCZ2FX12002GK	N/A	N/A	DS	Heat-Sink Package	•	•	•

DDR2-1066MHz

サイズ	ベンダー	パーツNo.	CL	チップ ブランド	SS/ DS	チップ No.	メモリサポート		
							A*	B*	C*
512MB	Kingston	KHX8500D2/512	N/A	Kingston	SS	Heat-Sink Package	•	•	•
512MB	Kingston	KVR1066D2N7/512	N/A	Elpida	SS	E5108AJBG-1J-E	•	•	•
512MB	Kingston	KHX8500D2K2/1GN	N/A	Kingston	SS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	Kingston	KHX8500D2K2/2GN	N/A	Kingston	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	Qimonda	HYS64T128020EU-19F-C	6	Qimonda	DS	HYB18T512800CF19FFSS24313	•	•	•
1G	Corsair	CM2X1024-8500C5D	5-5-5-15	Corsair	SS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	Transcend	TX1066QLJ-2GK1GB	5	Transced	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	AENEON	AXT760UD00-19DC97X	5	AENEON	DS	Heat-Sink Package	•	•	•

DDR2-800MHz

サイズ	ベンダー	パーツNo.	CL	チップ ブランド	SS/ DS	チップ No.	メモリサポート		
							A*	B*	C*
512MB	Kingston	KHX6400D2LLK2/1GN	N/A	Kingston	SS	Heat-Sink Package	•	•	•
512MB	Kingston	KVR800D2N6/512	N/A	Elpida	SS	E5108AJBG-8E-E	•	•	•
1G	Kingston	KVR800D2N5/1G	N/A	Elpida	DS	E5108AJBG-8E-E	•	•	•
1G	Kingston	KVR800D2N6/1G	N/A	Elpida	DS	E5108AJBG-8E-E	•	•	•
2G	Kingston	KVR800D2N5/2G	N/A	Elpida	DS	E1108ACBG-8E-E	•	•	•
2G	Kingston	KHX6400D2/2G	N/A	Kingston	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
4G	Kingston	N/A	N/A	Elpida	DS	E2108ABSE-8G-E	•	•	•
512MB	Samsung	M378T6553GZ5-CF7	6	Samsung	SS	K4T51083QG-HCF7	•	•	•
4G	Samsung	M378T5263AZ3-CF7	6	Samsung	DS	K4T2G084QA-HCF7	•	•	•
512MB	Qimonda	HYS64T64000EU-2.5-B2	6	Qimonda	SS	HYB18T512800B2F25FSS28380	•	•	•
512MB	HY	HYMPS64U64CP8-S5 AB	5	Hynix	SS	HY5PS12821CFP-S5	•	•	•
512MB	Kingmax	KLDC28F-A8KI5	N/A	Kingmax	SS	KKA8FF1XF-JFS-25A	•	•	•
512MB	Apacer	78.91G91.9K5	5	Apacer	SS	AM4B5708JQJ58E0751C	•	•	•
2G	Apacer	78.A1GA0.9K4	5	Apacer	DS	AM4B5808CQJ58E0740E	•	•	•
512MB	Transcend	TS128MLQ64V8J512MB	N/A	Micron	SS	7HD22 D9GMH	•	•	•
512MB	Transcend	TS64MLQ64V8J512MB	N/A	Transcend	SS	Heat-Sink Package	•	•	•
512MB	ADATA	M20AD6G3H3160Q1E58	N/A	ADATA	SS	AD29608A8A-25EG80812	•	•	•
512MB	VDATA	M20VD6G3H3160Q1E52	N/A	VDATA	SS	VD29608A8A-25EG20813	•	•	•
1G	ADATA	M20AD6G314170Q1E58	N/A	ADATA	DS	AD29608A8A-25EG80810	•	•	•
1G	ADATA	AD2800E001GU	444-12	N/A	SS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	VDATA	M20VD6G314170Q1E58	N/A	VDATA	DS	VD29608A8A-25EG80813	•	•	•
1G	PSC	AL7E8F73C-8E1	5	PSC	SS	A3R1GE3CFF734MAAOE	•	•	•
1G	Super Talent	T800U81GC4	4	Super Talent	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
2G	G.SKILL	F2-6400CL5D-4GBPQ	5	G.SKILL	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
4G	G.SKILL	F2-6400CL5Q-16GNQ	5	G.SKILL	DS	Heat-Sink Package	•	•	•

(次項へ)

DDR2-800MHz

サイズ	ベンダー	パーツNo.	CL	チップ ブランド	SS/ DS	チップNo.	メモリスポート		
							A*	B*	C*
1G	OCZ	OC22RPR8002GK	4	OCZ	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	OCZ	OC22G800R22GK	5	OCZ	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	OCZ	OC22P800R22GK	4	OCZ	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	OCZ	OC22VU8004GK	6	OCZ	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
1G	Elixir	M2Y1G64TU8HBOB-25C	5	Elixir	DS	N2TU51280BE-25C802006Z1DV	•	•	•
1G	AENEON	AET760UD00-25DC08X	5	AENEON	SS	AET03R250C 0732	•	•	•
512MB	MDT	MDT 512MB	5	MDT	SS	18D51280D-2.50726F	•	•	
512MB	TAKEMS	TMSS1B264C081-80SEP	5	takeMS	SS	MS18T51280-2.5P0710	•	•	•

DDR2-667MHz

サイズ	ベンダー	パーツNo.	CL	チップ ブランド	SS/ DS	チップNo.	メモリスポート		
							A*	B*	C*
512MB	Kingston	KVR667D2N5/512	N/A	Hynix	SS	HY5PS12821EFP-Y5	•	•	•
1G	Kingston	KVR667D2N5/1G	N/A	Hynix	DS	HY5PS12821EFP-Y5	•	•	•
2G	Kingston	KVR667D2N5/2G	N/A	Micron	DS	7RE22 D9HNL	•	•	•
4G	Samsung	M378T5263AZ3-CE6	5	Samsung	DS	K4T2G084QA-HCE6	•	•	•
512MB	Qimonda	HY564T64000EU-3S-B2	5	Qimonda	SS	HYB18T512B00B2F3SF5S28171	•	•	•
1G	Qimonda	HY564T128020EU-3S-B2	5	Qimonda	DS	HYB18T512B00B2F3SF5S28171	•	•	•
1G	Corsair	VS1GB667D2	N/A	Corsair	DS	MID095D62864M8CEC	•	•	•
1G	Corsair	XMS2-5400	4	Corsair	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
512MB	Kingmax	KLCC28F-A8KB5	N/A	Kingmax	SS	KKEA88B4AUG-29DX	•	•	•
1G	Kingmax	KLCD48F-A8KB5	N/A	Kingmax	DS	KKEA88B4AUG-29DX	•	•	•
512MB	Apacer	AU512E667C5KBGC	5	Apacer	SS	AM4B5708MUJ57E0627B	•	•	•
512MB	Apacer	AU512E667C5KBGC	5	Apacer	SS	AM4B5708GQJ57E06332F	•	•	•
512MB	Apacer	78.91G92.9K5	5	Apacer	SS	AM4B5708JQJ57E0751C	•	•	•
1G	Apacer	78.01G90.9K5	5	Apacer	SS	AM4B5808CQJ57E0751C	•	•	•
1G	Apacer	AU01GE667C5KBGC	N/A	Apacer	DS	AM4B5708GQJ57E0636B	•	•	•
1G	Apacer	AU01GE667C5KBGC	5	Apacer	DS	AM4B5708MUJ57E0627B	•	•	•
1G	Transcend	506010-4894	5	Elpida	DS	E5108AJBG-6E-E	•	•	•
512MB	ADATA	M2OAD5G3H3160Q1C52	N/A	ADATA	SS	AD29608A8A-3EG20813	•	•	•
1G	ADATA	M2OAD5G314170Q1C58	N/A	ADATA	DS	AD29608A8A-3EG80814	•	•	•
2G	ADATA	M2OAD5H3J4170I1C53	N/A	ADATA	DS	AD20908A8A-3EG 30724	•	•	•
512MB	PSC	AL6E8E63J-6E1	5	PSC	SS	A3R12E3JFF717B9A00	•	•	•
1G	PSC	AL7E8E63J-6E1	5	PSC	DS	A3R12E3JFF717B9A01	•	•	•
1G	PSC	AL7E8F73C-6E1	5	PSC	SS	A3R1GE3CFF734MAA0J	•	•	•
2G	PSC	AL8E8F73C-6E1	5	PSC	DS	A3R1GE3CFF733MAA00	•	•	•
512MB	Nanya	NT512T64U88A1BY-3C	N/A	Nanya	SS	NT5TU64M8AE-3C	•	•	•
1G	Nanya	NT1GT64U8HBOBY-3C	5	Nanya	DS	NT5TU64M8BE-3C72155700CP	•	•	•
1G	Super Talent	T667UB1GV	5	Super Talent	DS	PG 64M8-800 0750	•	•	•
512MB	Twinmos	8D-A3JKSMPETP	5	PSC	SS	A3R12E3GEF633ACA0Y	•	•	•
1G	ELIXIR	M2Y1G64TU8HA2B-3C	5	ELIXIR	DS	M2TU51280AE-3C717095R28F	•	•	•
1G	ELIXIR	M2Y1G64TU8HBOB-3C	5	ELIXIR	DS	N2TU51280BE-3C639009W1CF	•	•	•
1G	Leadmax	LRMP512U64A8-Y5	N/A	Hynix	DS	HY5PS12821CFP-Y5 C 702AA	•	•	•
512MB	MDT	DDRII 512 PC667	4	MDT	DS	18D51201D-30726E	•	•	•
1G	MDT	MDT 1024MB	4	MDT	DS	18D51200D-30646	•	•	•
512MB	AENEON	AET660UD00-30DB97X	5	AENEON	SS	AET93R300B 0634	•	•	•
512MB	TAKEMS	TMSS1B264C081-665QI	5	takeMS	SS	MS18T51280-3	•	•	•
512MB	TAKEMS	TMSS1B264C081-665AP	5	takeMS	SS	MS18T51280-3S0627D	•	•	•
1G	TAKEMS	TMS1GB264C081-665AE	5	takeMS	DS	MS18T51280-3S EA07100	•	•	•
512MB	ASINT	SLX264M8-J6E	N/A	ASINT	SS	DDRII6408-6E	•	•	•
512MB	Century	CENTURY 512MB	N/A	Nanya	SS	NT5TU64M8AE-3C	•	•	•
512MB	KINGBOX	512MB 667MHz	N/A	KINGBOX	SS	EPD264082200-4	•	•	•



SS - シングルサイド / DS - ダブルサイド

メモリサポート:

- **A***: シングルチャンネルメモリ構成として、1 枚のモジュールを任意のスロットに取り付けることが可能。
- **B***: 1 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2 枚 1 組のメモリをイエローのスロットまたはブラックのスロットに取り付けることが可能。
- **C***: 2 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、4 枚のメモリをイエローとブラックのスロット両方に取り付けることが可能。



最新のQVLは、ASUSのWebサイト (<http://www.asus.co.jp/>) をご覧ください。

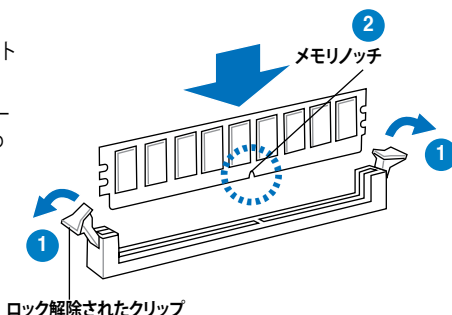
1.7.3

メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。

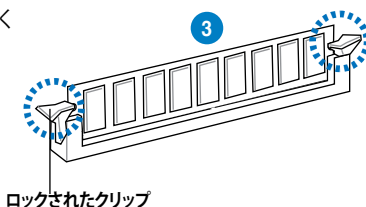


ロック解除されたクリップ



メモリは取り付けられる向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。

3. クリップが所定の場所にに戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかりと押し込みます。



ロックされたクリップ

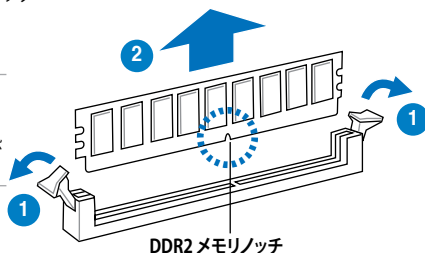
1.7.4 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っばります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。



2. スロットからメモリを取り外します。

1.8 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードの追加や取り外しを行う前は、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷や、マザーボードコンポーネントの損傷の原因となります。

1.8.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます（マザーボードをケースに取り付けている場合）。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

1.8.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter2をご参照ください。
2. IRQ (割り込み要求) 番号をカードに合わせます。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバがIRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなることがあります。詳細は次項の表をご参照ください。

1.8.3 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。

1.8.4 PCI Express x1 スロット

PCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カードの PCI Express 規格準拠のカードをサポートしています。

1.8.5 PCI Express x16 スロット

PCI Express 規格準拠の PCI Express x16 ビデオカードをサポートしています。

1.9 ジャンパ

1. Clear RTC RAM (3ピンCLRRTC)

このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック (RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの維持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

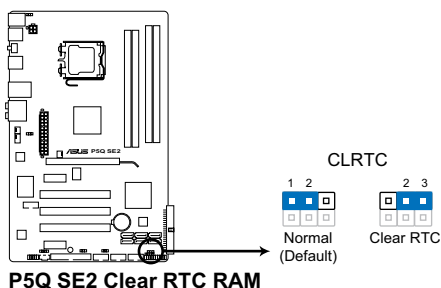
1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. ジャンパキャップをピン 1-2 (初期設定) からピン 2-3 に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
3. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
4. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。

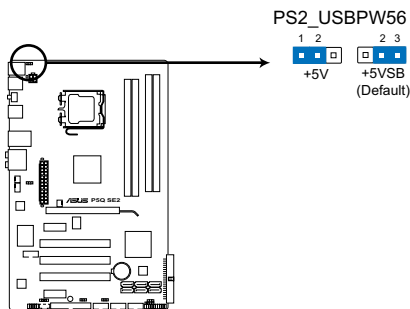


- 上記の手順を踏んでもRTC RAMがクリアできない場合は、マザーボードのボタン電池を取り外し、ジャンパの設定を行ってください。なお、クリアが終了した後は、電池を元に戻してください。
- オーバークロックによりシステムがハングアップした場合は、C.P.R. (CPU Parameter Recall) 機能をご利用いただけます。システムを停止して再起動すると、BIOS は自動的にパラメータ設定を初期設定値にリセットします。
- チップセットの動作上、C.P.R. 機能を有効にするにはAC 電源はオフの状態にする必要があります。システムを再起動する前に、電源を一度オフにしてからオンにするか、電源コードを抜いてから再度接続してください。



2. キーボード/マウス電源 (3ピンPS2_USBPW56)

このジャンパにより、キーボード/マウス、USB ポート 5-6 によるウェークアップ機能を設定できます。ピン2-3 (+5VSB) に設定すると、キーボードの特定のキー (初期設定はスペースキー)、マウス操作、USBデバイスにより、コンピュータをウェークアップすることができます。この機能には+5VSBリード線に最低 1 A 供給可能な ATX 電源とBIOS設定が必要です。USBPW56ジャンパはバックパネルのUSBポート用です。

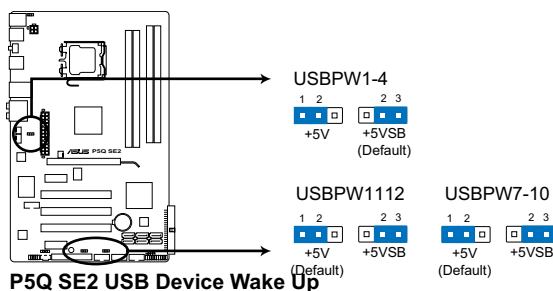


P5Q SE2 Keyboard/Mouse power

3. USB デバイスウェークアップ (3ピンUSBPW1-4, USBPW7-10, USBPW1112)

USB デバイスを利用して、S1 スリープモード (CPU 停止、DRAM リフレッシュ、低電力モードでのシステム稼働) からウェークアップするには、+5V に設定します。S3 と S4 スリープモードからウェークアップするには、+5VSB に設定します。

USBPW1-4、PS2_USBPW56ジャンパは/バックパネルのUSBポート用です。USBPW7-10、USB1112 ジャンパは内部USBコネクタ用です。

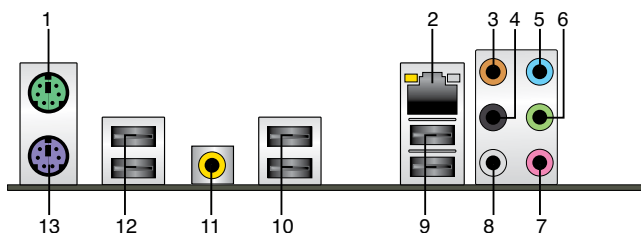




- USB デバイスウェークアップ機能には、各 USB ポート用の +5VSB リード線に 500mA の電流供給ができる電源装置が必要です。それ以外ではシステムはウェークアップしません。
- 総消費電流は、通常の条件でもスリープモードでも、電源装置の能力 (+5VSB) を超過しないようにしてください。

1.10 コネクタ

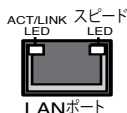
1.10.1 バックパネルコネクタ



1. **PS/2マウスポート(グリーン)**: PS/2マウス用です。
2. **LAN (RJ-45) ポート**: ネットワークハブを通して、LAN での Gigabit 接続をサポートします。LAN ポート LED の表示については、下の表を参考にしてください。

LAN ポート LED

ACT/LINK LED		スピード LED	
状態	説明	状態	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps
イエロー	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
点滅	データ有効	グリーン	1 Gbps



3. **センター/サブウーファポート(オレンジ)**: センター/サブウーファスピーカーを接続します。
4. **リアスピーカー出力ポート(ブラック)**: このポートは4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルのオーディオ構成で使用します。
5. **ライン入力ポート(ライトブルー)**: テープ、CD、DVDプレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
6. **ライン出力ポート(ライム)**: ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4、6、8チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。
7. **マイクポート(ピンク)**: マイクを接続します。
8. **サイドスピーカー出力ポート(グレー)**: 8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。



2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、次項のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	–	–	センタ/サブウーファ	センタ/サブウーファ
ブラック	–	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
グレー	–	–	–	サイドスピーカー出力

9. **USB 2.0 ポート 1 と 2** : USB 2.0 デバイスを接続することができます。
10. **USB 2.0 ポート 3 と 4** : USB 2.0 デバイスを接続することができます。
11. **コアキシャル S/PDIF 出力ポート** : コアキシャル S/PDIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
12. **USB 2.0 ポート 5 と 6** : USB 2.0 デバイスを接続することができます。
13. **PS/2 キーボードポート : (パープル)** : PS/2 キーボードを接続します。

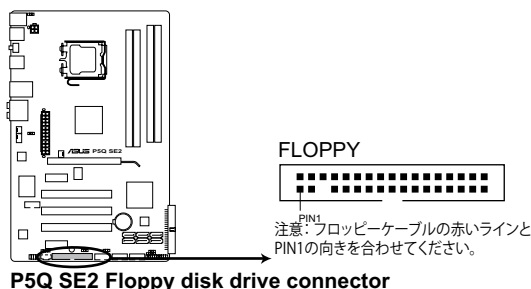
1.10.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンFLOPPY)

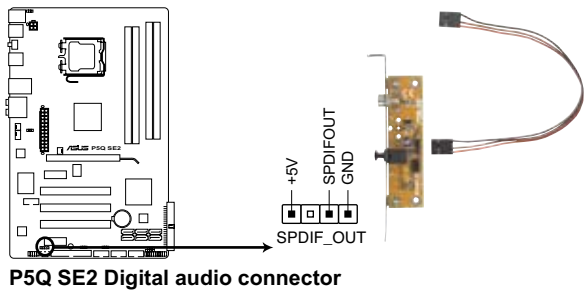
フロッピーディスクドライブ (FDD) ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



- 誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。
- FDDケーブルは別売りとなっております。



2. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピンSPDIF_OUT)
S/PDIFポート追加用のコネクタです。



S/PDIFモジュールは別売りとなっております。

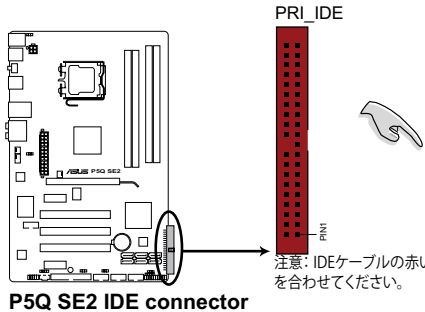
3. IIDEコネクタ (40-1ピンPRI_EIDE)

Ultra DMA 133/100/66 ケーブル用です。各 Ultra DMA133/100/66 ケーブルには ブルー、ブラック、グレー の3つのコネクタがあります。マザーボードの IDE コネクタには ブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。

	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1台	Cable-Select/マスター	-	ブラック
デバイス 2台	Cable-Select	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/グレー
		スレーブ	



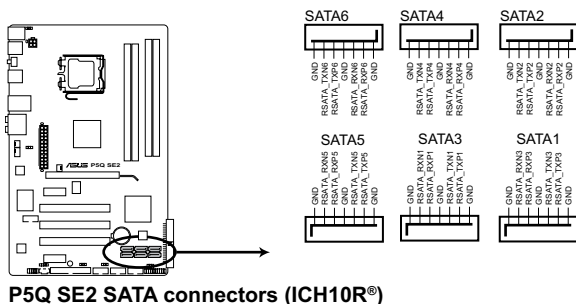
- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン 20 は取り外されています。
- Ultra DMA 133/100/66 IDE デバイスの場合は、80ピンタイプの IDE ケーブルを使用します。



あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。

4. Serial ATA connectors (7-pin SATA1-6)

Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブを接続します。

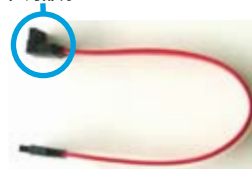


P5Q SE2 SATA connectors (ICH10R®)



SATAケーブルの直角部分を SATA デバイスに接続します。
あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。

直角部分

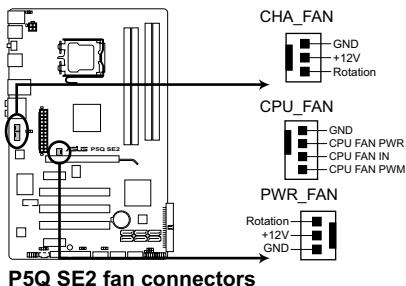


5. CPUファンコネクタ、ケースファンコネクタ、電源ファンコネクタ (4ピンCPU_FAN, 3ピンCHA_FAN, 3ピンPWR_FAN)

各ファンコネクタは+12Vで、350 mA ~ 2000 mA (最大24 W) またはトータルで 1 A ~ 7 A (最大84 W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。



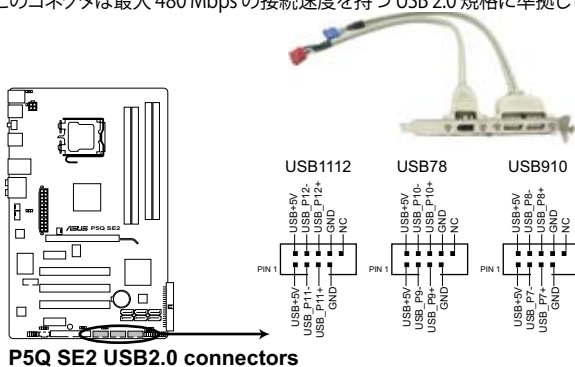
P5Q SE2 fan connectors



ASUS Q-FAN機能に対応しているのは、CPU_FANコネクタのみです。

6. USBコネクタ (10-1ピンUSB78、USB 910、USB1112)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。
このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



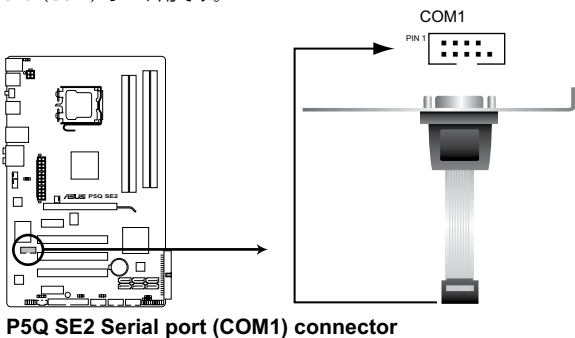
1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



USBモジュールは別売りとなっております。

7. Serial ポートコネクタ (10-1ピンCOM1)

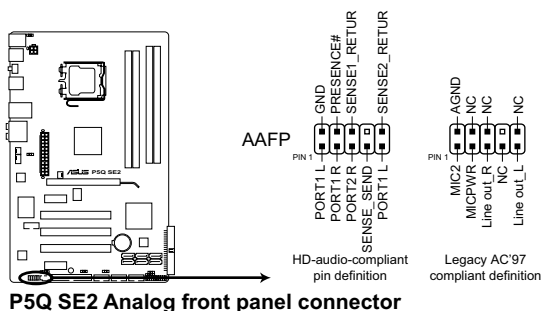
Serial (COM) ポート用です。



Serial ポートモジュールは別売りとなっております。

8. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピンAAFP)

ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、HDオーディオ及びAC'97オーディオをサポートしています。オーディオI/Oモジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。

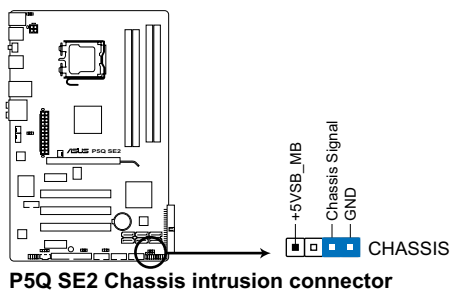


- HD オーディオ機能を最大限に活用するため、HD フロントパネルオーディオモジュールを接続することをお勧めします。
- HDフロントパネルオーディオモジュールをこのコネクタに接続する場合は、BIOSの「**Front Panel Type**」項目を [HD Audio] に設定してください。AC'97 フロントパネルオーディオモジュールを接続するには、この項目を [AC97] に設定してください。詳細はセクション「**2.5.3 オンボードデバイス設定構成**」をご参照ください。

9. ケース開閉検出コネクタ (4-1ピンCHASSIS)

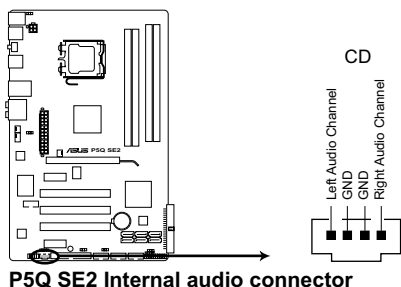
ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントの取り外しや交換のときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。

初期設定値では、「Chassis Signal」と「Ground」のピンの間にはジャンパキャップにより、ショートされています。ケース開閉検出機能を使用する場合にのみ、ジャンパを取り外してケース開閉検出センサーを接続してください。



10. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピンCD)

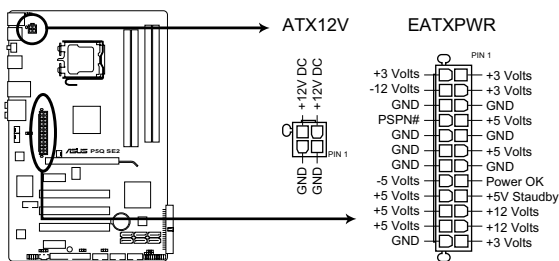
CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



P5Q SE2 Internal audio connector

11. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR, 4ピン EATX12V)

ATX 電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。



P5Q SE2 ATX power connectors



- システムの快適なご利用のために、最低 400 W ATX 12 V 仕様 2.0 (またはそれ以降) 対応電源ユニットを使用することをお勧めします。
- 4 ピン EATX12V 電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になる、システムが起動しなくなる等の問題が発生する場合があります。
- 以下の構成において、ATX 12 V 2.0規格 に基づく容量400Wの電源ユニットがマザーボードの電源要求を満たすことを確認しております。

CPU: Intel® Pentium® Extreme 3.73GHz

メモリ 512 MB DDR2 (× 4)

ビデオカード: ASUS EAX1900XT

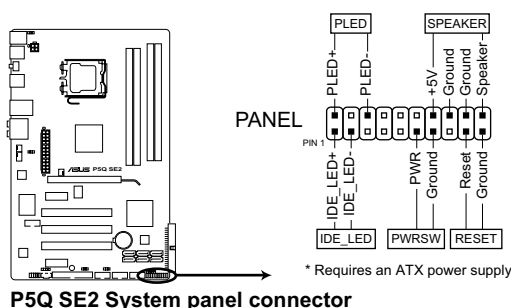
Parallel ATAデバイス: IDEハードディスクドライブ

Serial ATAデバイス:SATA ハードディスクドライブ (× 2)

光学ドライブ: DVD-RW

12. システムパネルコネクタ (20-8ピンPANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



- **システム電源LED (2 ピン PLED)**
システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- **HDD Activity LED (2 ピン IDE_LED)**
HDD Activity LED用です。HDD Activity LEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、HDDでデータの読み書きが行われているときに点灯または点滅します。
- **ビープ(Beep)スピーカー (4 ピン SPEAKER)**
ケース取り付けのビープスピーカー用です。スピーカーはその鳴り方でシステムの不具合を報告し、警告を発します。
- **ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (2 ピン PWRSW)**
システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。またBIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを押すと、システムの電源はオフになります。
- **リセットボタン (2 ピン RESET)**
ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

1.11 ソフトウェアサポート

1.11.1 OSをインストールする

本マザーボードはWindows® XP/Vista Operating Systems (OS)をサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OS を定期的にアップデートしてください。



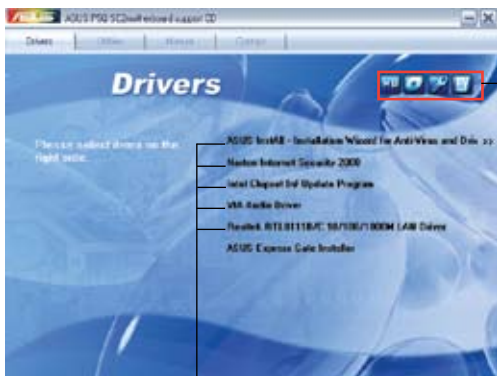
- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® XP Service Pack 2以降がインストールされていることをご確認ください。

1.11.2 サポート DVD 情報

マザーボードに付属の サポート DVD には、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが収録されています。

サポート DVDを実行する

サポート DVD を光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポートDVDとマザーボードの情報を表示

インストールする項目を選択



Autorun が有効になっていない場合は、サポートDVD の BIN フォルダから ASSETUP.EXE を探してください。ASSETUP.EXE をダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

[illegible]

Chapter 2

BIOSセットアップ

2.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. **ASUS Update** (Windows® 環境でBIOSを更新)
2. **ASUS EZ Flash 2** (DOS環境でBIOSを更新。フロッピーディスク/USB フラッシュディスクを使用)
3. **ASUS AFUDOS** (ブートフロッピーディスクを使用してDOSモードでBIOSを更新)
4. **ASUS CrashFree BIOS 3** (BIOS がダメージを受けた場合、フロッピーディスク、USBフラッシュメモリ/サポートDVDを使用して BIOS を更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスク/USB フラッシュディスクにコピーしてください。BIOS のコピーにはASUS Update または AFUDOS を使用します。

2.1.1 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- ・ マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- ・ インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- ・ 最新のBIOSファイルにBIOSを更新する
- ・ インターネットから直接BIOSを更新する
- ・ BIOSのバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポートDVD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポートDVDをセットします。ドライバメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「**Install ASUS Update**」をクリックします。



このユーティリティを使用してBIOS を更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. 「スタートメニュー」→「プログラム」→「ASUS」→「ASUSUpdate」→「ASUSUpdate」をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから、「Update BIOS from the internet」を選択し、「Next」をクリックします。
3. 最寄りの ASUS FTP サイトを選択するか、「Auto Select」をクリックし、「Next」をクリックします。



4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「Next」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。

BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. 「スタートメニュー」→「プログラム」→「ASUS」→「ASUSUpdate」→「ASUSUpdate」をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「Update BIOS from a file」を選択し、「Next」をクリックします。
3. OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「Open」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



2.1.2 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。


DOS 環境

- a. ドライブに1.44MBのフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOSプロンプトで、**format A:/S**を入力し、<Enter>を押します。

Windows® XP 環境

- a. 1.44 MBのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows®のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択し、フォーマットを選択します。
- d. 「**MS-DOSの起動ディスクを作成する**」を選択します。
- e. 「**開始**」をクリックします。

Windows® Vista environment

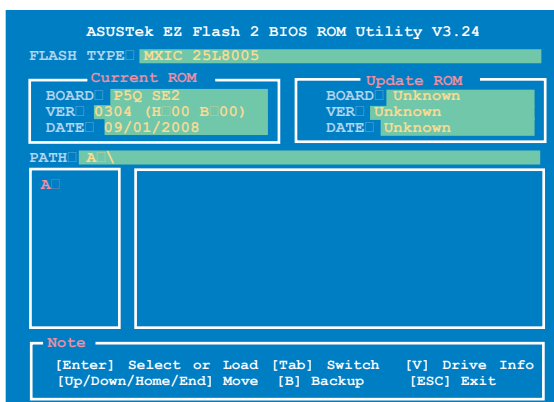
- a. フォーマット済みの HD 1.44 MB フロッピーディスクをドライブに挿入します。
 - b. デスクトップから  アイコンをクリックし、「**コンピュータ**」を選択します。
 - c. フロッピーディスクドライブを右クリックし、「**フォーマット**」をクリックして「**フォーマット - 3.5 インチFD**」のダイアログボックスを表示します。
 - d. 「**MS-DOSの起動ディスクを作成する**」のチェックボックスを選択します。
 - e. 「**開始**」をクリックします。
2. オリジナルまたは最新のマザーボードのBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

2.1.3 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですので、システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すことで起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USB フラッシュディスクに保存し、システムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を 起動する方法には以下の2つがあります。
 - (1) BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USB フラッシュディスクをフロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。
POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



- (2) IBIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USB フラッシュディスクをフロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。
POST 中にを押すと BIOS セットアッププログラムが表示されます。Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。

<Tab> を使ってファイルを選択し、<Enter> を押します。

4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が自動的に BIOS をアップデートし、システムが再起動されます。



- FAT 32/16 フォーマットの USB フラッシュディスク、フロッピーディスク等のデバイスのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

2.1.4 AFUDOS

AFUDOS ユーティリティは、BIOS ファイルを保存したブートフロッピーディスクを使用して、DOS 環境で BIOS ファイルを更新します。また、このユーティリティで現在の BIOS ファイルをバックアップ用に保存しておくこともできます。

現在の BIOS をコピーする

AFUDOS ユーティリティを使用して現在の BIOS ファイルをコピーします。



- フロッピーディスクは書き込み可能なもので、ファイルを保存するために少なくとも 1024KB の空き容量が必要です。
- 説明で使用している BIOS の画面は一例です。実際の BIOS 画面とは、異なる場合があります。

1. マザーボードサポート DVD 内に収録された AFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) をブートフロッピーディスクにコピーします。

2. ブートフロッピーディスクからシステムを起動します。
3. プロンプトで以下のように入力します。

afudos /o[filename]

[filename]は自由に決めることができます。入力可能な名前は、8文字以下の英数字のファイル名と3文字の英数字の拡張子です。

```
A:\>afudos /oOLDBIOS1.rom
```

ファイル名 拡張子

<Enter>を押します。マザーボードのBIOSファイルがフロッピーディスクにコピーされます。

BIOS ファイルがコピーされると、DOS プロンプトに戻ります。

BIOSファイルを更新する

AFUDOSユーティリティを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、ブートフロッピーディスクに保存してください。



紙などにBIOSファイル名を書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

2. マザーボードサポート DVD 内に収録されたAFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) をブートフロッピーディスクにコピーします。
3. ブートフロッピーディスクからシステムを起動します。
4. プロンプトで以下のように入力します。

afudos /i[filename]

[filename] は、BIOS ファイル名です。

```
A:\>afudos /iP5QSE2.ROM
```

<Enter>を押します。



BIOS の更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムエラーの原因となります。

5. BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /iP5QSE2.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19 (ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.
```

```
WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done
```

```
Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... done
Verifying flash .... done
```

```
Please restart your computer
```

```
A:\>
```

2.1.5 ASUS CrashFree BIOS 3

ASUS CrashFree BIOS 3 はBIOSの自動復旧ツールで、BIOS更新時に障害を起こした場合や破損した BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOSファイルはサポートDVD、または BIOS ファイルを保存したUSBフラッシュメモリで更新することができます。



- このユーティリティを使用する前に、サポートDVDまたは BIOS を保存したUSBフラッシュメモリ、フロッピーディスクをお手元にご用意ください。
- 本マザーボードで PATA光学ドライブをご使用の場合、このユーティリティは機能しません。
- SATA ケーブルをSATA1/2/3/4SATAコネクタに必ず接続します。ユーティリティが動作しなくなります。

フロッピーディスクから BIOSを復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. オリジナルまたは更新したBIOSファイルが保存されたフロッピーディスクを、ドライブに挿入します。下のメッセージが表示され、フロッピーディスク内のオリジナルまたは更新した BIOSファイル が自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P5QSE2.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。
システムの起動エラーの原因となります。

3. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。

サポート DVD から BIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. サポート DVD を光学ドライブに挿入します。

下のメッセージが表示され、DVD の BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

フロッピーディスクが検出されない場合、光学ドライブ内の オリジナルまたは更新したBIOS ファイルが自動的にチェックされ、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy not found!
Checking for DVD-ROM...
DVD-ROM found!
Reading file "P5QSE2.ROM". Completed.
Start flashing...
```

3. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。



復旧したBIOSは最新バージョンではない可能性があります。最新の BIOS はASUS Web サイト (www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

USB フラッシュメモリからBIOSを復旧する

手順

1. BIOS ファイルを保存した USB フラッシュメモリを USB ポートにセットします。
2. システムをオンにします。

BIOSファイルが自動的にチェックされ、破損した BIOS ファイルを更新します。

3. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。



- FAT 32/16 フォーマットでシングルパーティションのUSBフラッシュディスクのみをサポートします。また、デバイスのサイズは8GB未満である必要があります。
- BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

2.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能な Serial Peripheral Interface (SPI) チップを搭載しており、「**2.1 BIOS 管理更新**」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新をすることが可能です。BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または「Run Setup」を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にする、または、電源管理設定を変更することができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPC チップのCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのSPIチップにはBIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間に キーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

POSTの終了後にBIOS 設定プログラムを実行する場合は、以下のいずれかの方法でOSを再起動してください。

- 通常の方法で、スタートメニューからOSを再起動する。
- <Ctrl>+<Alt>+ キーを押す。
- システムのケース上にあるリセットボタンを押す。
- 電源ボタンを押してシステムの電源をOFFし、再度電源ボタンを押す。



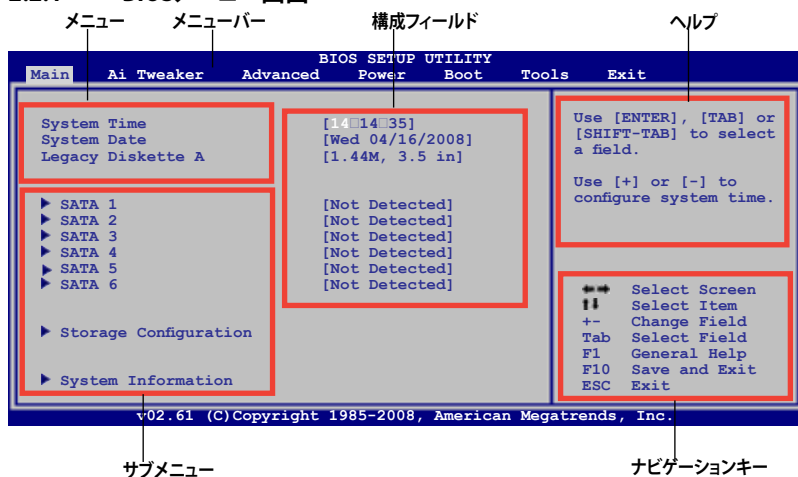
上記の1以外の方法は、動作中のOSを強制的に終了する方法で、データの消失、システムへのダメージを引き起こす可能性があります。1の方法での再起動をお勧めします。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールする、使用可能なオプションから設定を選択することができます。



- このマザーボードの BIOS の初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になる場合は、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、終了メニューの下の「Load Setup Defaults」を選択します。(詳細は「2.9 終了メニュー」をご参照ください)
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

2.2.1 BIOSメニュー画面



2.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには次の項目があり、主な設定内容は以下のとおりです。

Main	基本システム設定の変更
Ai Tweaker	システムパフォーマンスの設定
Advanced	拡張システム設定の変更
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更
Boot	システム起動設定の変更
Tools	独自機能の設定オプション
Exit	終了オプションと初期設定値のロード

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

2.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

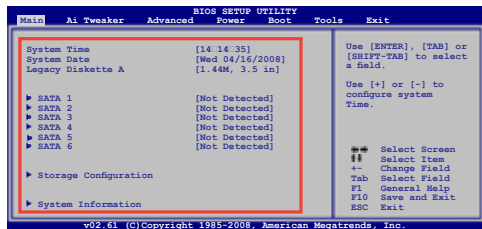


掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。

2.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

2.2.5 サブメニュー

サブメニューが含まれる項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

2.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

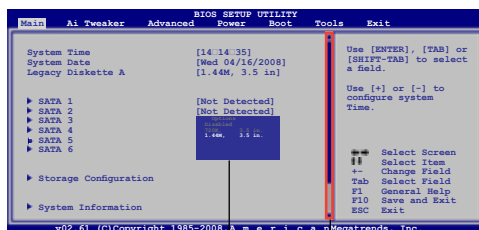
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「2.2.7 ポップアップウィンドウ」をご参照ください。

2.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し<Enter>を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

2.2.8 スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または<Page Up>/<Page Down>キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

2.2.9 ヘルプ

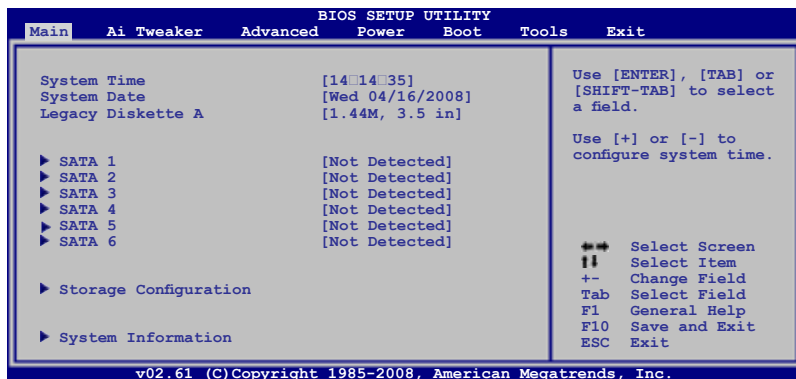
メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

2.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「2.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。



2.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

2.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

2.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

Sフロッピーディスクドライブのタイプを設定します。設定オプション: [Disabled]
[720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.]

2.3.4 SATA 1~6

セットアップ中に BIOS は自動的に IDE デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。

BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoring の各値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに IDE デバイスが接続されていない場合は「N/A」と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto] に設定すると、適切な IDE デバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は [CDROM] を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス) を選択します。

設定オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBA モードを設定します。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBA モードが有効になります。デバイスが LBA モードでフォーマットされていない場合は無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-Sector Transfer) M [Auto]

マルチセクタ転送を設定します。[Auto] に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled] に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。設定オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMA モードを設定します。設定オプション: [Auto]

SMART Monitoring [Auto]

SMART (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology) 機能の設定をします。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

32Bit Data Transfer [Enabled]

32-bit データ転送を設定します。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

2.3.5 Storage Configuration

SATA デバイスの設定を変更します。設定を変更したい項目を選択し <Enter>を押します。

SATAConfiguration [Enhanced]

設定オプション: [Disabled] [Compatible] [Enhanced]

Configure SATA as [IDE]

サウスブリッジチップがサポートしている Serial ATA コネクタを設定します。

設定オプション: [IDE] [AHCI]



Intelチップセットドライバサポート規定により、AHCIモードはWindows XP環境ではサポートされず、OS内蔵ドライバ付きのWindows Vistaによってのみサポートされます。

Hard Disk Write Protect [Disabled]

ハードディスクにライトプロテクトを設定します。BIOS からのアクセスしか行わない場合に使用します。設定オプション:[Disabled] [Enabled]

IDE Detect Time Out (Sec) [35]

ATA/ATAPI デバイスの検出用にタイムアウトを設定します。

設定オプション : [0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

2.3.6 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。

BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

System Memory

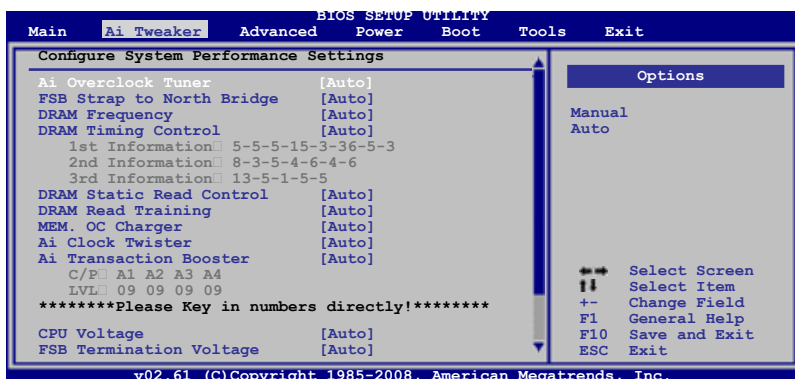
自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

2.4 Ai Tweaker メニュー

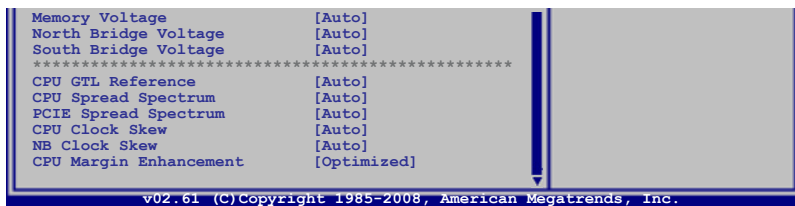
Ai Tweaker メニューではオーバークロックに関連する設定を行います。項目を選択して、<Enter>キーを押してください。設定オプションが表示されます。



Ai Tweakerメニュー項目の設定を変更する際は注意してください。誤ったパラメータを設定すると、システムが故障することがあります。



スクロールダウンして次の項目を表示させます。



Ai Overclock Tuner [Auto]

CPU オーバークロックオプションを選択して、CPU 内部周波数を設定することができます。下の設定オプションから1つ選択します。

Manual - オーバークロックの値を手動で設定します。

Auto - システムに対して最適な設定をロードします。



次の2項目は「**Ai Overclock Tuner**」を [Manual] にすると表示されます。

FSB Frequency [xxx]

FSB 周波数を表示します。値は BIOS により自動検出されます。<+> と <-> キー、または数字キーを使って周波数を調整してください。設定範囲は 200 ~ 600 です。設定値の詳細は次の表をご参照ください。

FSB 周波数とCPU外部動作周波数

FSB	CPU外部動作周波数
FSB 1600	400 MHz
FSB 1333	333 MHz
FSB 1066	266 MHz
FSB 800	200 MHz

PCIe Frequency [Auto]

PCI Express 周波数を設定します。<+> と <-> キーで値を調節します。キーボードでPCIe周波数を入力することも可能です。設定範囲は 100~160です。

FSB Strap to North Bridge [Auto]

FSB Strap の調節が可能です。設定オプション: [Auto] [200MHz] [266MHz] [333MHz] [400MHz]

DRAM Frequency [Auto]

DDR2メモリの動作周波数を設定します。設定オプション: [Auto]

[DDR2-533MHz] [DDR2-639MHz] [DDR2-667MHz] [DDR2-709MHz] [DDR2-800MHz]

[DDR2-852MHz] [DDR2-887MHz] [DDR2-1066MHz] [DDR2-1200MHz]



DRAM周波数を667MHz未満に設定すると、システムが起動しなくなる場合があります。

DRAM Timing Control [Auto]

DRAMタイミングを設定します。

設定オプション: [Auto] [Manual]



- ・ 次の各項目は「**DRAM Timing Control**」を [Manual] にすると表示されます。
- ・ 次の各項目の設定オプションは実際に取り付けたメモリによって異なります。

1st Information: 5-5-5-15-3-36-5-3

CAS# Latency [5 DRAM Clocks]

設定オプション: [3 DRAM Clocks] ~ [11 DRAM Clocks]

DRAM RAS# to CAS# Delay [5 DRAM Clocks]

設定オプション: [3 DRAM Clocks] ~ [18 DRAM Clocks]

DRAM RAS# Precharge [5 DRAM Clocks]

設定オプション: [3 DRAM Clocks] ~ [18 DRAM Clocks]

RAS# Activate to Precharge [15 DRAM Clocks]

設定オプション: [3 DRAM Clocks] ~ [34 DRAM Clocks]

RAS# to RAS# Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

Row Refresh Cycle Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [20 DRAM Clocks] [25 DRAM Clocks]

[30 DRAM Clocks] [35 DRAM Clocks] [40 DRAM Clocks] [45 DRAM Clocks] [50 DRAM Clocks] [55 DRAM Clocks] [60 DRAM Clocks] [65 DRAM Clocks] [70 DRAM Clocks]

[80 DRAM Clocks] [85 DRAM Clocks] [105 DRAM Clocks] [132 DRAM Clocks]

Write Recovery Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

Read to Precharge Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

2nd Information: 8-3-5-4-6-4-6

READ to WRITE Delay (S/D) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

WRITE to READ Delay (S) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

WRITE to READ Delay (D) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

READ to READ Delay (S) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

READ to READ Delay (D) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

WRITE to WRITE Delay (S) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

WRITE to WRITE Delay (D) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

3rd Information: 13-5-1-5-5

WRITE to PRE Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [31 DRAM Clocks]

READ to PRE Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

PRE to PRE Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [3 DRAM Clocks]

ALL PRE to ACT Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

ALL PRE to REF Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 DRAM Clocks] ~ [15 DRAM Clocks]

DRAM Static Read Control [Auto]

この項目の設定を変更することで、DRAMのオーバークロック性能が向上する場合があります。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

DRAM Read Training [Auto]

この機能を調節することで、DRAMのオーバークロック性能が向上する場合があります。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

MEM. OC Charger [Auto]

この機能を調整することで、DRAMのオーバークロック性能が向上する場合があります。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

Ai Clock Twister [Auto]

DRAMのパフォーマンスを設定します。この項目を [Light] または [Lighter] にすると、DRAMの互換性が向上します。[Strong]または[Stronger] にするとDRAM のパフォーマンスが上がります。

設定オプション: [Auto] [Lighter] [Light] [Moderate] [Strong] [Stronger]

Ai Transaction Booster [Auto]

システムパフォーマンスを設定します。設定オプション: [Auto] [Manual]



次の2つの項目は「**Ai Transaction Booster**」の項目を [Manual] にすると表示されます。

C/P: A1 A2 A3 A4

LVL: 09 09 09 09

Common Performance Level [05]

数値を高く設定すると、互換性が上がり、低く設定するとパフォーマンスが上がります。数値は <+> と <-> キーで調節します。

Pull-In of CHA/B PH1/2/3/4 [Disabled]

この項目を有効にすると、DRAMチャンネルA/Bのフェーズ数が1から4に増強されます。フェーズ数はDRAM周波数とFSBストラップにより決まります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

CPU Voltage [Auto]

CPU VCore 電圧を設定します。設定範囲は 0.8500V ~ 1.7500Vで、0.00625V 刻みで設定します。
設定オプション: [Auto]



「CPU Vcore Voltage」の設定を行う前にCPUの説明書をご参照ください。
設定値が高すぎるとCPUの損傷、低すぎるとシステム不安定の原因となることがあります。

FSB Termination Voltage [Auto]

FSBターミネーション電圧を設定します。設定範囲は 1.20V ~ 1.50Vで、0.10V 刻みで設定します。



45nm CPUを検出する場合、最小値は 1.10V、最大値は 1.40V となります。

Memory Voltage [Auto]

手動または自動でメモリの電圧を設定します。<+>と<-> キーで調節します。設定範囲は 1.80V ~ 2.20Vで、0.10V 刻みで設定します。

North Bridge Voltage [Auto]

手動または自動で ノースブリッジの電圧を設定します。<+>と<-> キーで調節します。
設定範囲は 1.10V ~ 1.40Vで、0.10V 刻みで設定します。



電圧を非常に高く設定するとコンポーネントが損傷することがあります。非常に低く設定するとシステムが不安定になることがあります。

South Bridge Voltage [Auto]

サウスブリッジ電圧を設定します。設定範囲は 1.50V ~ 1.70Vで、0.20V 刻みで設定します。

CPU GTL Reference [Auto]

CPU GTL 電圧リファレンスを設定します。設定オプション: [Auto] [0.667x] [0.65x] [0.63x] [0.615x]

CPU Spread Spectrum [Auto]

CPU spread spectrumの設定が可能です。設定オプション: [Auto] [Disabled]

PCIE Spread Spectrum [Auto]

PCIE spread spectrumの設定が可能です。設定オプション: [Auto] [Disabled]

CPU Clock Skew [Auto]

CPU clock skew の設定が可能です。設定オプション: [Auto] [Normal] [Delay 75ps] [Delay 150ps] [Delay 225ps] [Delay 300ps] [Delay 375ps] [Delay 450ps] [Delay 525ps] [Delay 600ps] [Delay 675ps] [Delay 750ps] [Delay 825ps] [Delay 900ps] [Delay 975ps] [Delay 1050ps] [Delay 1100ps]

NB Clock Skew [Auto]

NB clock skewの設定が可能です。設定オプション: [Auto] [Normal] [Delay 75ps] [Delay 150ps] [Delay 225ps] [Delay 300ps] [Delay 375ps]

[Delay 450ps] [Delay 525ps] [Delay 600ps] [Delay 675ps] [Delay 750ps]
[Delay 825ps] [Delay 900ps] [Delay 975ps] [Delay 1050ps] [Delay 1100ps]

CPU Margin Enhancement [Optimized]

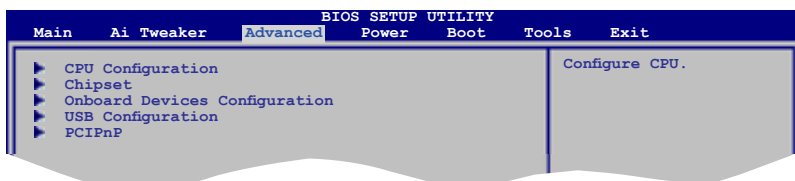
設定オプション: [Optimized] [Compatible]

2.5 拡張メニュー

CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



2.5.1 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。

CPU Ratio Setting [Auto]

CPUコアクロックとFSB周波数の倍率を設定します。



倍率がCMOSで設定されている場合、実際の値と設定値が異なる場合があります。



倍率の数値を直接入力してください。

C1E Support [Enabled]

CPU Enhanced Halt (C1E) 機能について、有効/無効を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Max CPUID Value Limit [Disabled]

[Enabled] に設定すると、拡張CPU ID機能のCPUをサポートしない場合でも Legacy OSはブートします。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Intel® Virtualization Technology [Enabled]

Intel® Virtualization テクノロジーに関する設定を行います。この技術は仮想化を強化し、1つのプラットフォームで複数のOSを動作させ、各独立したパーティションで複数のアプリケーションを動作させることができます。この仮想化技術により、1つのコンピュータシステムを仮想化された複数のシステムとして動作させます。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

CPU TM function [Enabled]

Intel® CPU Thermal Monitor (TM) 機能の設定を行います。オーバーヒートしたCPUのクロックを抑えることで冷却を図ります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Execute-Disable Bit Capability [Enabled]

No-Execution Page Protection Technologyの有効/無効を設定します。[Disabled] に設定するとXD機能が常にゼロ (0) に戻ります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



次の項目は、Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST)をサポートする Intel® Pentium® 4以降のCPUを取り付けると表示されます。

Intel® SpeedStep® Technology [Enabled]

Enhanced Intel® SpeedStep™ Technologyの有効/無効を設定します。[Enabled] に設定すると、OS上で電源設定を変更することで、EIST機能が働きます。EIST機能を利用しない場合は[Disabled] に設定してください。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

2.5.2 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter>を押すとサブメニューを表示させることができます。

North Bridge Configuration

Memory Remap Feature [Enabled]

物理メモリ上の重複 PCI メモリのリマッピングを設定します。64bit OSをインストールしている場合のみ、[Enable]にしてください。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Memory Hole [Disabled]

メモリホールのモードを設定します。

設定オプション: [Disabled] [15MB-16MB]

Initiate Graphic Adapter [PEG/PCI]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックスコントローラを選択します。

設定オプション: [PCI/PEG] [PEG/PCI]

2.5.3 オンボードデバイス設定構成

High Definition Audio [Enabled]

HD オーディオの設定を行います。次の項目はこの項目を有効にすると表示されます。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Front Panel Type [HD Audio]

この項目ではフロントパネルオーディオコネクタ(AAFP) モードを、フロントパネルオーディオモジュールのサポートする規格に従って、レガシーAC'97 またはHDオーディオに設定します。設定オプション: [AC97] [HD Audio]

Marvell IDE controller [Enabled]

オンボードMarvell® IDE コントローラの有効/無効を切り替えます。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Onboard PCIe GbE LAN [Enabled]

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

LAN Option ROM [Disabled]

この項目はOnboard PCIe GbE LANを有効にすると表示されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを設定します。

設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

2.5.4 USB設定

USB関連機能の変更をすることができます。項目を選択し <Enter> を押して設定オプションを表示させてください。



「USB Devices Enabled」には自動検出された値が表示されます。USBデバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB Functions [Enabled]

USB機能の有効/無効を切り替えます。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0 コントローラの有効/無効を切り替えます。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

USB 2.0 コントローラのモードを設定します。HiSpeed (480 Mbps) または FullSpeed (12 Mbps) から選択します。

設定オプション: [FullSpeed] [HiSpeed]

BIOS EHCI Hand-off [Enabled]

[Enabled]に設定することによって、EHCI ハンドオフ機能のない OS でも問題なく動作させることができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Legacy USB Support [Auto]

レガシーUSB デバイスの設定。[Auto]に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないレガシー USB のサポートは無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

2.5.5 PCIPnP

PCI/PnP デバイスの設定を変更します。



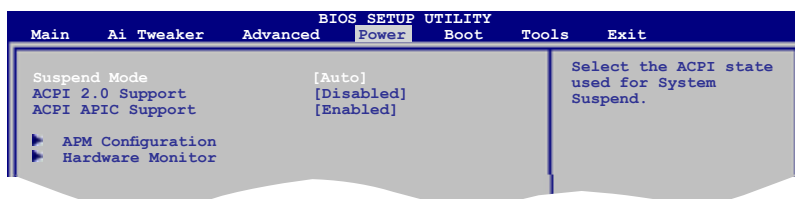
PCI PnP メニュー項目の設定値を変更する際はご注意ください。不適切な設定値はシステムの誤作動に繋がります。

Plug And Play O/S [No]

[No] にすると、システム内の全てのデバイスはBIOSにより構成されます。[Yes] にし、Plug and Play OSをインストールしている場合は、起動に不要な Plug and Play デバイスは全てOSにより構成されます。設定オプション: [No] [Yes]

2.6 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



2.6.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。

設定オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

[S1(POS) Only] - システムをACPI S1 (Power on Suspend)スリープ状態にします。S1スリープ状態では、システムはサスペンドされ低電力モードを維持します。システムはいつでも復帰可能です。

[S3 Only] - システムをACPI S3 (Suspend to RAM)スリープ状態 (初期設定) にします。S3スリープでは、オフ状態になりS1の状態よりも低電力モードです。ウェイクアップデバイスやイベントがあるとシステムはスリープ前の作業モードに復帰します。

[Auto] -OSが検出します。

2.6.2 ACPI 2.0 Support [Disabled]

Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 2.0 にテーブルを追加することができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

2.6.3 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかを設定します。[Enabled] に設定すると、ACPI 設定内のRSDT ポインタリストにAPIC テーブルのポインタが追加されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

2.6.4 APMの設定

Restore On AC Power Loss [Power Off]

[Power Off]に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On] に設定すると、再通電時に電源をオンにします。[Last State] に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。

設定オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを作成する RTC を設定します。この項目を [Enabled] に設定すると、アラームの日時がユーザー設定可能になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行されるまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On By PCI Devices [Disabled]

PCI デバイスを使用して S5 状態から PME ウェイクアップする機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PCIE Devices [Disabled]

PCI Express デバイスを使用してウェイクアップする機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

PS/2 キーボードで電源オンにする機能を無効にできます。また、キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5V SB リードで最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Space Bar] [Ctrl-Esc] [Power Key]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

PS/2 マウスで電源オンにする機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、+5V SB リードで最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

2.6.5 ハードウェアモニタ

CPU Temperature [xxx°C/xxx°F]

MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

オンボードハードウェアモニタはマザーボードとCPU温度を自動的に検出して表示します。なお、[Ignored] にすると表示されなくなります。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [Ignored]

CPUファンスピードを自動的に検出して回転数/分(RPM)の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには [N/A] と表示されます。

CPU Q-Fan Control [Disabled]

CPU Q-Fan コントローラの有効/無効を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

CPU Fan Profile [Standard]

CPU Q-Fanのパフォーマンスレベルを適切に設定します。

設定オプション: [Standard] [Silent] [Turbo]



「CPU Fan Profile」はCPU Q-Fan Control 機能を有効にすると表示されます。

Chassis Fan Speed [xxxxRPM] or [Ignored] / [N/A]

オンボードハードウェアモニタはケースファンのスピードを自動的に検出して表示します。なお、ファンが検出されない場合は、[N/A] と表示されます。

Power Fan Speed [xxxxRPM] or [Ignored] / [N/A]

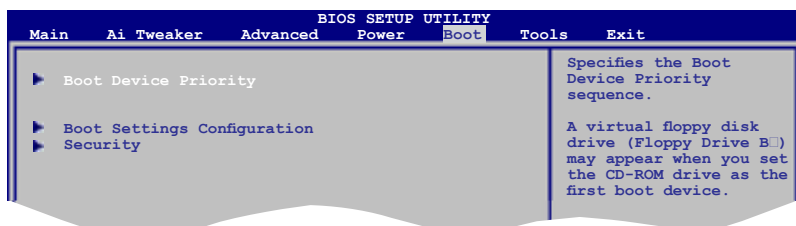
電源ファンスピードを自動的に検出して回転数/分(RPM)の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには [N/A] と表示されます。

CPU Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage [xxxxV] or [Ignored]

オンボードハードウェアモニタはオンボード電圧レギュレーターを通過する電圧出力を自動検出します。なお、[Ignored] にするとこの値は検出されなくなります。

2.7 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。



2.7.1 ブートデバイスの優先順位

1st ~ xxth Boot Device

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。設定オプション: [1st FLOPPY DRIVE] [Hard Drive] [ATAPI CD-ROM] [Disabled]

2.7.2 起動設定

Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます。設定オプション: [Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo2™機能をご利用になる場合は「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] に設定してください。

AddOn ROM Display Mode [Force BIOS]

オプション ROM に対するディスプレイのモードを設定します。

設定オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。

設定オプション: [Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2 マウスのサポートの有効/無効を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Wait For 'F1' If Error [Enabled]

[Enabled] に設定するとシステムはエラー発生時に <F 1> キーを押すまで待機します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

[Enabled] に設定すると、POST 中に「Press DEL to run Setup (Delete キーで BIOS メニューを表示)」というメッセージが表示されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Interrupt 19 Capture [Disabled]

[Enabled] に設定すると、オプション ROM (SCSI や IDE RAID の BIOS 等) が Int 19 を検出可能になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

2.7.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定の変更。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。

Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「Supervisor Password」は、初期設定値は「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「Change Supervisor Password」を選択します。
2. 「password box」で、6 文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter> を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter> を押します。消去すると「Password Uninstalled」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、「1.9 ジャンプ」のページをご参照ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。

User Access Level [Full Access]

BIOS メニューへのアクセス制限の選択。

設定オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access] - BIOS メニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only] - アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited] - 日時など、限られた設定のみを変更することができます。

[Full Access] - すべての項目を表示、変更することができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「**User Password**」は初期設定値では「**Not Installed**」になっています。パスワードを設定すると、「**Installed**」に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「**Change User Password**」を選択します。
2. 「**password box**」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「**Password Installed**」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

ユーザーパスワードをクリアします。

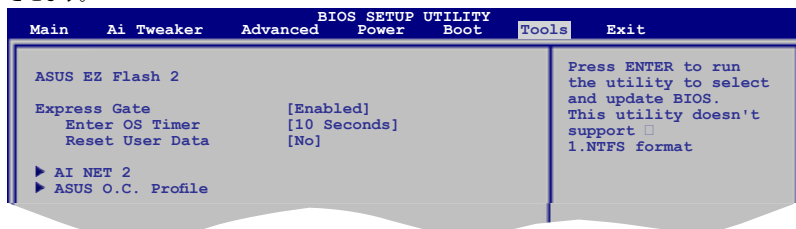
Password Check [Setup]

この項目を[Setup]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。

設定オプション: [Setup] [Always]

2.8 ツールメニュー

スペシャル機能のオプション設定をします。項目を選択し<Enter>を押してサブメニューを表示させます。



2.8.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2を起動します。<Enter>を押すと確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [OK] または [Cancel] を選択し <Enter> を押して選択を決定します。詳細はセクション 2.1.3 をご参照ください。

2.8.2 Express Gate [Enabled]

Express Gateの有効/無効を切り替えます。ASUS Express Gateは独自のインスタント・オン環境を提供し、インターネットブラウザやSkypeにクイックアクセスします。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Enter OS Timer [10 Seconds]

Express Gate のトップ画面での待機時間を設定します。この時間が経過すると、Windows OS (または他のOS) が起動します。[Prompt User]を選択すると、ユーザーが操作するまで、Express Gate のトップ画面が表示されたままになります。

設定オプション: [Prompt User] [1 second] [3 seconds] [5 seconds]
[10 seconds] [15 seconds] [20 seconds] [30 seconds]

Reset User Data [No]

Express Gate のユーザーデータを消去します。設定オプション: [No] [Reset]
[Reset] を選択する場合は、次にExpress Gate を開くときにユーザーデータが
消去されますので、各設定データをBIOSに保存してください。消去されるデー
タには Express Gate の設定、ブラウザ上に保存した個人データ (ブックマーク、
Cookie、履歴など) が含まれます。これは不正なデータ設定により、Express
Gateを正常に起動できなくなる問題を防ぐのに有効な手段となります。



設定をクリアした後、Express Gate環境に入ると再度初回設定ウィザードが起動します。

2.8.3 AI NET 2

Check Realtek LAN cable [Disabled]

Power-On Self-Test (POST) 時のRealtek LANケーブルの点検機能を有効/無効にします。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

2.8.4 ASUS O.C. Profile

Save to Profile 1/2

BIOS ファイルを BIOS Flash に保存します。

Load from Profile 1/2

BIOS Flash に保存したBIOS 設定をロードすることができます。<Enter> を押してファイルをロー
ドしてください。

Start O.C. Profile

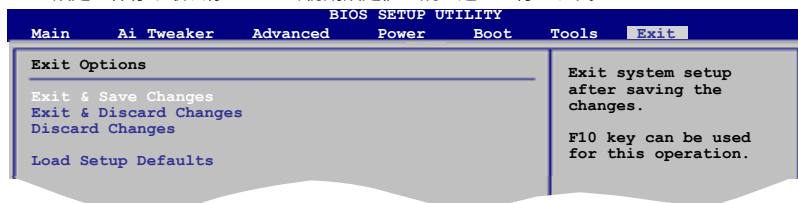
ユーティリティを起動して CMOS を保存、ロードします。<Enter> を押してユーティリティを起動
します。



- USB フラッシュディスクやフロッピーディスクなどのデバイスを FAT 32/16 フォーマットでのみサポートします。
 - BIOS の更新中はシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。
-

2.9 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。「Exit」メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit」メニューからこのオプションを選択し、設定をCMOS RAM に保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保存します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「YES」を選択すると、変更を保存して終了します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復旧します。このオプションを選択した後には、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「YES」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「YES」を選択して初期設定値をロードします。Exit & Save Changes を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。